

仕事を夢と呼ぶ教育

花巻南高等学校 三年 後藤 百花

子どもの頃から「将来の夢は。」と聞かれると、誰もが、憧れる仕事を答えていたように感じています。夢は、その人自身にとっての希望であり、生きがいです。時には、それが周囲の人にとっての喜びになることもあります。

しかし私は、仕事を夢として挙げることに違和感と不安を感じます。それは、私自身も中学・高校と進路や将来について考えていく機会が増えてきた中で実感したことです。

夢は、人それぞれが自由に見たり持ったりするものだと私は考えています。だから、それは現実味に乏しかったり、自己中心的なものであったとしても、人に咎められるべきものではないと思います。それに対して、仕事は全く別のものです。個人ではなく社会という大きな単位に関わり、責任も伴います。常に世間に求められていること、役に立つことを考えていく必要があると思います。

こうして比べても、やはり夢と仕事は切り離して考えるべきだと考えられます。今、夢を持ってない・持たない人が増えているといえます。それに対して「夢が無いなんて将来への意識が全くないからだ、けしからん。」という態度をとる事は、夢と仕事という言葉を同義化させてしまう危険性があるだろうと思います。

最近の若者が仕事やバイトを続ける事ができない、といった話を聞くと、職場の環境に問題が無いとすれば、将来の夢と仕事を併せて考えさせられてきた事に原因があるのではと考えてしまいます。自分のやりたい仕事を夢として見れば見るほど「やりがいのある、素敵な仕事」という見方に偏ってしまい、いざ就職して辛い現実を目の当たりにすると、「こんなはずじゃなかった。」「思っていたのと違う。」という自体に陥ってしまうわけです。

これは、とても些細な小さな事なのかもしれませんが。言葉のあやだと言ってしまうと、きっとそれまでです。それでも私は、言葉は慎重に選んでいかなければならないと思うし、意識していきたいと思っています。自分の些細な言動が周囲にどんな影響を与えていくのかを振り返っていく事はとても大切なことで、それを積み重ねていく事は、大人も子どもも関係なく、誰もが思いおもいの夢を描くことのできる社会につながるだろうと思います。